

第2回インフォメーション・ヘルスAWARD『アイデア部門』 応募用紙

○タイトル 体験学習型の詐欺対策「絶対払わないけど、騙されるだけ騙されてみた」

○応募者氏名 勝本浩平
または グループ名

○解決したい情報環境をめぐる課題

インターネットの普及とともに、詐欺メールやフィッシング詐欺、さらに電話を使った特殊詐欺のニュースが絶えない。これらの詐欺は巧妙化しているのか、啓発にも関わらず、被害額も大きなものになっている。現状では、詐欺対策教育が「詐欺の見極めと回避」に偏り、実践的な体験を欠いている。さらに、迷惑メールや詐欺電話を「無視する」ことが、効率的に「ひっかかりやすい」ターゲットを見極めようとする詐欺師の労力を低減してしまうという構造上の問題もある。

○アイデアの具体的な内容（どんなもので、どんな人が、どう使うと、課題が解決できるのか）

このアイデアでは、学生が安全な環境で詐欺メールや詐欺電話に対する実践的な対応を学ぶことを目的とした教育用のプラットフォームを作りたい。プラットフォームでは、一時的なメールアドレスや電話番号を発行し、さらには架空の個人情報も用いながら、実際の詐欺師とのやり取りをシミュレートすることができるようにする。

主に中学生や高校生などの学生を対象とする。教育機関がこのツールを授業に導入することで、学生たちは詐欺対策を実践的に学習することができ、さらに詐欺師側のコストを増加させることで社会全体としての詐欺対策とする。

1. 一時的なメールアドレスや電話番号などを発行: 学生はプラットフォームを通じて一時的なメールアドレスや電話番号を取得する。
2. 情報流出のリスクを排除: 一時的に利用可能な架空の個人情報を使うことで、学生たちは安心して詐欺体験に参加できる。これにより情報流出のリスクを最小限に抑えながら、実践的な教育が行える。
3. 詐欺師とのやり取りをシミュレート: 学生は発行された連絡手段を使って、実際に詐欺師からの接触を受け、架空の個人情報を用いてやり取りを行う。これにより、詐欺の手口をリアルタイムで体験することができる。
4. 送金・入金阻止: 他のアプリやサイトへの誘導などを防止することで、利用者が誤って送金・入金することがないようにする。
5. 学びをフィードバックする: 詐欺師とのやり取りを通じて学んだ内容は、可能な限り共有し、対策を議論・強化する。

課題解決できるもの

- リアルな体験を通じて学べる: 学生たちは、実際に詐欺師とやり取りすることで、インターネットリテラシーや電話詐欺対応能力を高めることができる。理論だけではなく、実践的な経験が彼らのスキルを向上させ、実際の詐欺に対しても適切に対応できるようになる。
- 詐欺師のコストを上げる: 積極的に詐欺師とやり取りすることで、詐欺師の時間や労力を奪い、詐欺を「割に合わないもの」にする。これにより、新たな被害者の発生を防ぎ、社会全体としての詐欺対策として機能させる。

○アイデアは未発表のものかどうか。すでに「試作」「試行」している場合は、新たに付け加えたいアイデア（ブラッシュアップするポイント）など

このアイデアは未発表のものです。

現在ある詐欺対策の基本は「危ない物にはさわらない」です。学校教育でもその見極めに力を費やし、「避ける」ことを教育します。迷惑メールフィルターなど実際の対策でも同じです。

AI の発展でフィルタリング機能が向上していますが、逆に、たまにそれを抜けてくる迷惑メールについては、こちらでも警戒を解いてしまう傾向もあるようにも思います。

このアイデアの一番大きな問題は、一時的とはいえ「偽」の情報を提供することが倫理的にゆるされるのかどうかという部分です。使用者による悪用も防がなくてはいけませんので、プラットフォームの提供側である程度のターゲット許可を必要とするかもしれません。これまで迷惑メールフィルターなどで培った AI の機能を流用できないかとも考えました。教育研修その場に限定しての使用にするべきかもしれません。

また、手口を教えることが逆の教育になるのではという懸念もあると思います。しかし、差別教育でも「寝た子を起こすな」という考え方に反論があるように、何事に対しても無知ではいけないと思っています。

○アイデアを思いついたきっかけ

詐欺と思われるメールや電話にアクセスしたことはありますか？

私は、連絡を試してみたらどうなるのかを知りたくて、大手通販業者をかたる、あやしい連絡先に実際に電話をかけたことがあります。その経験で一番大きな発見は「こいつは詐欺に引っかかりそうにないと判断したら意外とあっさりと引くんだな」ということでした。

「迷惑メールは10000通送って、1人でも反応してくれれば元が取れる。それだけでなく、元々あやしいメールに返信しない人は、その後の詐欺にも引っかかりにくいので、返信するという行動自体で詐欺耐性の低い人がスクリーニングされている」という話も聞きました。

実際に電話をしてみても、こちらが強気に「あなたがやっていることは詐欺ではないか？」という姿勢で応答をしていると、相手は「今回のメールはこちらの間違いですので、そのメールは削除してください」とあっさりと引き下がりました。ただし、いろいろと確認をしようと思って質問を投げかけると「個人情報の提供」を求められました。そうなるとなかなか安心して追及ができずに悔しい思いをしました。

お金は払わないと決めて連絡をしていましたので、そこは大丈夫なのですが、それ以外の心配は個人情報の流出だったので、そのあたりがクリアになれば、経験として一度体験することは、とてもいい学習なのではないかと思いました。

教師として、学校で教える「危険なものを教え、それを避けるようにする」リテラシー教育には一定の効果はあると思っています。しかし、それでも詐欺は無くなるどころか増えています。詐欺をする側も元々無視ができる人を狙っては時間や労力もがかかるので、あえて詐欺だと認識している人達が、詐欺対策として、積極的に連絡を試みるという機会を作れないかと思いました。

「詐欺師がねらうのはお金と個人情報だ」とも聞いたことがあります。「お金を払わない」「個人情報を伝えない」ということを大前提として、実際に詐欺を体験でき、さらに詐欺のコストを上げ、大きく詐欺に対応するという教育的詐欺対策を考えました。

私のこの経験は一度だけのものです。そして詐欺の手法も日進月歩しているのだらうと思います。多くの人が少しでも安全に体験することが、詐欺師の時間と労力も奪い、「詐欺」という大きな社会問題を少しでも減らす手段になるのではと考えました。